

元気

まち物語

2015.4



市内5大学連携 公開講座「赤間関」

講座の名称となっているのは、下関の古称「赤間関」。各大学が有する下関の歴史や文化、芸術などの知的資源を地域社会に還元していきたいとの思いから付けられました。

公開講座って何をやるの？

私たちのまちには、下関市立大学・東亜大学・梅光学院大学・水産大学校・下関短期大学の5つの大学があります。各大学にはそれぞれの特徴がありますが、皆さんは各大学がどういった分野の教育や研究をしているか知っていますか？
今回紹介するのは、5つの大学が連携して市民に対して開催している公開講座「赤間関」です。

「赤間関」に込めた思い

「大学の名前は知っているけれど実際は何をしているか知らない」という市民の方が多いのが現状です。大学のことを知ってもらう手段はないかと多くの大学関係者が考えていました。各大学の特徴を生かし、市民の誰でも参加可能な講座を開講してみようかといった意見が多くあったことから、5つの大学が連携して公開講座を始め

ることとなりました。講座の名称となっているのは、下関の古称「赤間関」。各大学が有する下関の歴史や文化、芸術などの知的資源を地域社会に還元していきたいとの思いから付けられました。

毎年、大学の特徴を生かした講座を各大学の持ち回りで開催しています。1回目は、下関短期大学による「赤間関硯一図案の展開」、2回目は、梅光学院大学による「下関における女子教育の歩みー梅光学院を例にしてー」。3回目となる今年度は、水産大学校による「関門海峡くふね、ひと、れきし」をテーマに水産大学校の練習船「耕洋丸」での講義と船内見学をしました。普段は聞けないことが聞けるということ、多くの市民の方が参加しました。

講座を担当するメンバーはすべて大学関係者。限られた時間の中で集まって、意見を出し合いながら少しずつ形にしていきます。「参加した皆さんから『いろいろな勉強になりました』と言っていただけで

これからの目標

本当にやりがいを感じます」とメンバーの皆さん。異なる大学の職員が集まることで、自分たちでは気が付かない新たな発見があります。

一番の目標は継続していくこと。それぞれの大学の特徴を生かした講座を開催して、地域に貢献していくことが大切です。「今は1テーマで1講座です。今後は、幅広い年代の方に参加してもらうために、1つのテーマを掘り下げてさまざまな講座を開催していきたい」とメンバーの皆さんは同じ目標を持って活動しています。

平成27年度は東亜大学の担当で、テーマ・内容などはこれから決めること。東亜大学らしさを基に、5つの大学が集まるからこそできる講座を目指します。

- ①～② 下関短期大学による「赤間関硯一図案の展開」
- ③～④ 梅光学院大学による「下関における女子教育の歩みー梅光学院を例にしてー」
- ⑤～⑦ 水産大学校による「関門海峡くふね、ひと、れきし」
- ⑧ 公開講座「赤間関」担当のメンバーの皆さん



公開講座「赤間関」